

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスどれみくらぶ		
○保護者評価実施期間	令和6年10月1日		～ 令和6年11月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	36名	(回答者数) 20名
○従業者評価実施期間	令和6年11月1日		～ 令和6年11月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年1月15日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	食事や活動などで場所を変えて行っている。それによって利用者にも「何をやる」かが分かりやすく、理解しやすい。	認知や感覚の偏りによるこだわり等、空間に個々の特性にも配慮し、自分に入ってくる情報を適切に収集しやすくなるよう支援します。	現在の部屋の使用方法が適切か、また使用している空間で他の使い方ができないか等を日々職員間で検討しながら、利用者の特性に合わせた環境づくりの検討を行っています。
2	その日あった出来事や些細な変化などを送迎時に日常会話の中で、ご家族に伝えることが信頼関係の構築に繋がっている。	送迎時の申し送り等を通して、学校、教職員とも連携し、どれみくらぶの職員間でも共有していきます。 どれみくらぶでの様子をお伝えすると共に、ご家庭での様子や困っていること等について、連絡帳、送迎の際のほか、必要時は面談の場を設け、ご家族(ごきょうだい)と情報を共有し、協力して支援を行っています。	今後も日ごろの様子等を伝え信頼関係の構築を継続していきます。
3	法人内の放課後等デイサービスと情報共有を行っている。	法人内の同部署(放デイ)と日々のコミュニケーションを撮っており、共通の課題や困りごとなど情報共有を行っています。	今後も定期的な会議や日々のコミュニケーションを行い、円滑に業務が行えるようにします。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	イベント(夏祭り、クリスマス会)等が放課後等デイサービス単体では行えていない。	併設特別養護老人ホームのコロナ影響も控えていた。令和6年度より徐々に特養がイベントを行っているため、それに参加する形を取っていた。	放課後等デイサービス単体で行事や交流会の開催を今後検討していきます。
2	送迎時に介助者を付けないことがある。	開設当初は小学部低学年の利用者が多く、下校時間も限られていた。学年が上がるにつれ下校時間が多く、利用している方の学校も増えたため、同時時間帯に3校へ別々に行かなければならず、どうしても介助者を同乗しての送迎を行えない。	配置基準の人数では利用校数や下校時間帯が増えたことに内奥できなかった。シートやベルトなどいろいろな道具を工夫してりようすることで安全を確保しながら送迎を行っている。
3	現在利用されている曜日以外の利用について。	どの曜日も定員となっているため、他の曜日の利用が難しい。	卒業生があった場合に提案できることがある。